

令和6年度事業計画

自 令和6年4月1日
至 令和7年3月31日

一般社団法人日本透析医学会

目 次

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(6)
3. 編集委員会	(6)
4. 学術委員会	(7)
5. 統計調査委員会	(9)
6. 専門医制度委員会	(11)
7. 国際学術交流委員会	(12)
8. 評議員選出委員会	(12)
9. 保険委員会	(12)
10. 倫理委員会	(13)
11. 腎不全総合対策委員会	(13)
12. 危機管理委員会	(13)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(14)
14. 男女共同参画推進委員会	(15)
15. 感染対策委員会	(16)

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第 69 回日本透析医学会学術集会・総会は、東邦大学医学部腎臓学講座 教授 酒井 謙会長が主宰し、2024 年 6 月 7 日（金）、8 日（土）、9 日（日）の 3 日間、パシフィコ横浜を会場として開催する。

今回のテーマは「前進 腎代替療法～次世代の interprofessional academism を目指して～」を掲げて開催する。

<会長講演>

「10 年後の腎代替療法と私たち」

<特別講演>

「AIM による末期腎不全に対する新しい医療の創出」, 「異種移植の未来」, 「重症化予防と共同意思決定の推進に向けて～どこまで透析医療を提供するか～」, 「トイレカー開発と活用の経験をふまえた透析カーの開発について」, 「ロシア・ウクライナ戦争と日本の安全保障」, 「「生きる」を支える～患者・家族・医療者のスピリチュアルケア～」, 「療法選択時にお話しすべきこと：心血管系合併症について」, 「令和 6 年能登半島地震と透析医療」

<緊急特別企画>

「透析患者総数減少へ その要因・展望を議論する」

<会長特別企画>

「透析患者のジレンマ克服に向けて」, 「働き方改革とダイバーシティ」

<会長特別企画（ずばり！あの先生のお話が聞きたい！シリーズ）>

「高齢 CKD 患者の身体・認知機能を護る～透析と共により良い余生を送るために～」, 「肥満関連腎症の病態生理」, 「鉄補充の必要状態」, 「長時間透析・頻回透析」, 「腎性骨症」, 「2 次性 QT 延長症候群」

<招待講演>

「Promoting Conservative Kidney Management and Kidney Supportive Care in Asia : Paradigm Shift and New Opportunities」, 「Current Status of Renal Replacement Therapy in Korea」, 「Arteriovenous access creation in challenging patients : new attempts」, 「Bone disease in kidney transplant recipients」, 「Fluid status assessment in renal failure patients」, 「Green Dialysis : Addressing the Imperative for Sustainability」

<教育講演>

「透析施設のサイバーセキュリティ対策」, 「透析そう痒症治療の最前線」, 「透析導入となった ANCA 関連血管炎の治療戦略」, 「カフ型カテーテルの安全管理」, 「本邦腎移植の現状と生体腎移植施設要件の明確化の必要性」, 「バスキュラーアクセス作製修復～画像から技術習得を目指して～」, 「超音波を用いたバスキュラーアクセス機能のサーベイランス」, 「高齢者腎移植の現状と課題」, 「血液浄化法と分離膜」, 「PD と HD 併用療法」, 「透析施設における日常のバスキュラーアクセス管理」, 「透析アミロイドーシスに対する β_2 -ミクログロブリン吸着法の現状と展望」, 「透析患者の心臓弁膜石灰化」, 「腹膜透析における遠隔医療」, 「腎不全医療に関する倫理と法」, 「CKD-MBD の新たな疾患コンセプト」, 「Green Nephrology～電力消費とその削減～」, 「臨床研究の視点と事例から学ぶ！患者報告型アウトカム（PRO）と健康関連 QOL の応用」, 「透析患者の悪液質とサルコペニア・フレイル」, 「透析患者に対する利尿薬の使い方」, 「Palliative PD」, 「包括的腎臓リハビリテーション～転倒リスクのある透析患者へのかかわり～」, 「CART の最前線」, 「急性腎障害に対する血液浄化法のトピックス」, 「生体腎移植にたどり着けない理由」, 「腎代替療法選択支援と腎代替療法指導管理料」, 「感染症 Up-to-Date～コロナ・パンデミックからサイレント・パンデミック AMR まで～」, 「透析室で押さえておくべき感染対策」, 「ISPD ガイドライン 2023 からみる新しい PD 出口部管理」, 「透析医療の災害対策」, 「透析液清浄化と排水管理のすべて」, 「透析医療における診療報酬

制度」

<シンポジウム>

「透析患者の心房細動のマネージメント」, 「リアルワールドにおける CKM の課題：その解決の糸口を探す」, 「骨・骨格筋障害と MBD 透析患者の骨を守る透析患者の骨代謝と骨折」, 「慢性腎臓病に伴う貧血ガイドライン (Part 1)」, 「わが国における HD/オンライン HDF における溶質除去と生命予後」, 「PD 合併症への最新のアプローチと対策」, 「Critical Care Nephrology の最近の進歩」, 「血液浄化における α 1MG 除去の意義と効果的除去」, 「透析患者の皮膚を再考する～皮膚を守るために知るべきこと・すべきこと～」, 「透析療法における在宅生活維持のための多職種連携」, 「ここまでの透析治療の新たな展開～透析患者への適応を考える～」, 「高齢透析患者の終末期管理」, 「災害時の透析医療に関する広域関東圏連携会議の設立と展望」, 「未来の透析医療と AI 技術」, 「透析患者の予後を向上させる心血管症治療の進歩」, 「円滑な腎代替療法の移行のために～透析から腎移植・腎移植から透析～」, 「臨床工学技士による VA の日常管理」, 「CKD-MBD ガイドライン 新時代」, 「ここまでの透析患者の血管石灰化予防戦略～基礎・臨床研究からの新たな展開～」, 「透析患者の腸腎連関～透析患者と腸内環境～」, 「透析患者の心血管障害を再考する！」, 「慢性腎臓病に伴う貧血ガイドライン (Part 2)」, 「HIF-PH 阻害薬をフカボリする ～何がわかって何がわかっていないのか?～」, 「透析患者の性差を考えた治療と支援」, 「超高齢者に対する PD～人生の最終段階での療法選択, PD 導入と継続のポイント～」

<合同企画シンポジウム>

日本腎臓学会：移行医療（保存期～透析期）の問題点

日本腎臓リハビリテーション学会：透析患者の腎臓リハビリテーション, サルコペニア対策の視点から

日本臨床腎移植学会：イスタンブール宣言 5 学会声明（今腎移植を増やすには）

日本臨床工学技士会：タスクシフト・シェアの現状と将来の透析医療

日本心不全学会：透析患者の HFpEF の病態・治療に迫る

日本腎不全看護学会：Successful aging/terminal stage を目指した腎不全看護

日本フットケア・足病医学会：透析患者の足病克服に向けて～各専門領域からの視点～

日本臨床栄養学会：私の透析管理（老若男女）

<日台韓合同シンポジウム>

「Conservative kidney management：CKM」

<ワークショップ>

「透析患者の至適体液量を測定する－体組成分析 vs. 循環動態分析－」, 「血液浄化法によって薬物の除去率, 投与方法は異なるのか?」, 「ウレミクトキシンと透析療法」, 「急性腎障害における栄養療法」, 「末期腎不全治療のパラダイムシフト：modality から domesticity へ」, 「基礎と臨床が連携するサルコペニアの病態解明とこれからの栄養管理」, 「本邦における長期 PD の安全性を検証する～腹膜透析の新たな潮流～」, 「微量元素：あなたはいくつ言えますか?」, 「透析システムの生体適合性」, 「モニタリングのスペシャリストを目指して」, 「腹膜透析 CQI」, 「生体腎移植ドナーの安全性検証」, 「透析の経済と人口減少：持続可能な経営モデルの探求今後の保険点数を含めた透析医療の展望」, 「血液透析導入時の条件設定の考え方（低効率透析の是非）」, 「透析患者の血圧管理を考える」, 「PD 教育（患者, 看護師, 医師）」, 「在宅透析（HHD・CAPD）および長時間透析における臨床工学技士の役割と展望」, 「サイコネフロジーと多職種連携を科学する」, 「高齢者・フレイル患者の透析治療を再考する」, 「透析関連排水の適正管理」, 「小児腎代替療法の未来：課題と対策」, 「VA 看護の確立に向けて VA をアセスメントする看護の視点」, 「末期腎不全患者の ACP と CKM の実際」, 「集まれ！透析食を研究しているチーム～全国で繋がろう～」, 「CKD 全期を通じた腎臓リハビリテーション」

<学会・委員会企画>

危機管理委員会（医療安全小委員会）企画：透析医療における医療安全のための提言作成に向けて

学術委員会企画：Dialysis therapy, year in review 2023

学術委員会（血液透析患者の糖尿病治療ガイド改訂ワーキンググループ）企画：透析患者の糖尿病治療ガイド改訂 コンセンサスカンファレンス

専門医制度委員会企画：「サブスペシャリティ学会の方針転換」と日本透析医学会専門医制度

感染対策委員会企画：改訂された「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン」のポイント

血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会／血液浄化に関連する新技術検討小委員会企画：未来の透析技術への前進—「血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会」および「血液浄化に関連する新技術検討小委員会」合同セッション—

統計調査委員会企画：こんなことまでできる！ WADDA システム

総務委員会企画：本邦の血液浄化技術の海外展開，軌跡と展望

腎不全総合対策委員会企画：末期腎不全患者の QOL 向上を考える

男女共同参画推進委員会企画：TSUBASA PROJECT・2023 年度透析専門医勤務状況調査報告

保険委員会企画：診療報酬令和 6 年改定で何がどのように変わったか？

危機管理委員会（災害対策小委員会）企画：地域における災害時透析医療確保の取り組み

国際学術交流委員会企画：各国における透析医療における自然災害対策 Countermeasures for natural disaster in dialysis center

国際学術交流委員会企画：各国における適切な透析効率とそれを達成する工夫 Ideas for the optimal dialysis efficiency under each country's dialysis environment

<よくわかるシリーズ>

「ボタンホール穿刺の 20 年の歩み～技術の進化と臨床への貢献～」, 「カフ型カテーテル合併症について」, 「透析医療における女性リーダーの育成とそのアプローチ」, 「透析診療に安静 12 誘導心電図を生かす」, 「高血圧症治療の再評価」, 「在宅血液透析 2024～過去から未来への挑戦と展望～」, 「透析患者のむずむず脚症候群をどう治療するか?」, 「たんぱく質の質と腎臓との関係～食事パターンも含めて～透析患者の栄養管理 update」, 「血液透析処方 の組み立て方」, 「透析患者のリハビリテーション, 結局どうしたらいいの?」, 「Incremental Hemodialysis～段階的血液透析導入法～」, 「慢性疾患患者のアドバンスケアプランニング」, 「透析患者のスキンケア」, 「認知症の人の心に届く声のかけ方, 接し方」, 「もう一度知ろう! 心不全と胸部診察」, 「循環血液量モニタの役割と活用」, 「血液透析患者の甲状腺機能管理」, 「療法選択外来」, 「身体組成分析装置の役割・期待（～ドライウエイトの設定～）」, 「バスキュラーアクセス（VA）のトラブルシューティング手術」, 「上腕動脈表在化バスキュラーアクセスの合併症の修復」, 「コメディカルの研究マインドの重要性と学会発表・論文作成の実際」, 「シャント作製術, カフ型カテーテル留置術, 腹膜透析カテーテル留置術」, 「患者の尊厳と自律を保障する看護を考える」, 「鉄動態（欠乏・過剰）に気を付けよう」, 「VA 管理 管理簿作成のノウハウ」, 「3%を超えるための PD 拡充戦略 腎代替療法の多様性を考える」, 「超音波エコーガイド下穿刺の実際～エコーガイド下穿刺の手順および注意点～」, 「COVID-19 から学んだ透析医療における感染対策～対策継続の意義～」, 「CKD 患者のオーラルフレイル対策～適切な医科歯科連携を目指して～」

<企業共催シンポジウム>

「診療報酬改定から見えてくる PD 連携の将来像」, 「二次性副甲状腺機能亢進症におけるハイリスク患者の最適治療を考える」, 「多職種間で考える足病治療」, 「腎性貧血治療における HIF-PH 阻害薬と鉄剤の役割」, 「CKD-MBD の視点から考える透析液組成」, 「透析患者のこれからを見据えて: 高リン血症治療の今後の展望」, 「透析患者の腎性貧血治療～なぜ ESA ファーストなのか?～」, 「ロキサデュスタットは透析期腎性貧血治療のファーストになり得るか?～鉄代謝を踏まえた実臨床での有用性を考える～」, 「貧血と予後を考慮した鉄代謝マーカーの適正評価と鉄補充」, 「共に腎代替療法を前進させる～患者さんの声を聴

く～」,「DOPPS シンポジウム」

<企業セミナー>

ランチョンセミナー, スイーツセミナー, イブニングセミナー

<その他>

6月7日(金) 医療安全講習会

6月8日(土) 医療倫理講習会

6月9日(日) 感染講習会

6月7日(金) 8:00~6月28日(金) 17:00 日本透析医学会認定透析液水質確保に関する研修

※詳しくは総会ホームページをご確認ください。

2) 通常総会・臨時総会

(1) 第69回通常総会開催:2024年6月6日(木) 15:00~16:30

(2) 臨時総会開催:2024年6月6日(木) 16:30~17:30

(3) 学会賞・奨励賞授与式および講演会開催:2024年6月8日(土)

3) 役員会

(1) 常任理事会・理事会開催:2024年5月17日・6月6日・8月・12月・2025年3月

(2) 監事による監査会開催:2024年5月13日(月)

4) 透析施設会員名簿の発行

施設会員名簿は例年どおり発行されるが、個人情報保護の観点から、電話番号や責任者氏名などの公表を希望しない施設については、引き続きその情報を掲載しない方針である。

また、会員専用ホームページに検索マップを開設し、施設・賛助会員の検索ができるようにしたが、さらなる充実を図るとともに個人情報保護の観点から、施設の公表を希望しない場合には情報を掲載しない方針である。

5) 小委員会

(1) 情報管理小委員会(脇野 修委員長)

学会ホームページの円滑な運営, 内容充実を図る。

① 学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行う。

② コンテンツを見直し, 逐次更新する。

(2) 透析医療専門職資格検討委員会(酒井 謙委員長)

① 慢性腎臓病療養指導看護師(平成29年9月から施行)に関する助言と問題点への対策を行う。

② 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師認定制度に対する助言を行う。

③ 管理栄養士育成事業として, 日本栄養士会が実施する管理栄養士専門分野別人材育成(CKD分野)における助言を行う。

④ 腎代替療法専門指導士の応募専門資格・資格更新については, 日本腎代替療法医療専門職推進協会と引き続き協議を継続する。日本腎代替療法医療専門職推進協会に新規に参入希望の指導士資格に関しては, 協議を推進する。

(3) 統計調査のあり方小委員会(武本佳昭委員長)

① あらたな諸法の整備に適応して, 統計調査実施の倫理基盤の確認を行う。

② 統計調査結果の解析, 論文化の計画の明確化, 会員施設へのインセンティブを検討する。

③ 統計調査委員会と意見交換を行い, 統計調査のIT化の方向性を模索する。

④ 統計調査データのWEB収集及びEDC(electric data capture)システムに関わる調査等を実施し, 具体的な仕様をEDC推進検討ワーキンググループと合同で検討する。

(4) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会(山下明泰委員長)

① 2023年度の決定に基づき, 対面式での研修を再開する。COVID-19以前に決まっていた研修候補者5名

全員に対する参加意思確認はすでに済んでおり、研修は2024年の第69回日本透析医学会学術集会・総会に合わせて、東京～神奈川地区で実施する。

- ② 昨今の物価高、取り分け航空券および宿泊に関する費用負担は深刻であるため、研修予算の増額（200万円から250万円へ）を希望することとした。
- (5) 本学会のあり方小委員会（武本佳昭委員長）
 - ① 公益社団法人への移行について継続した審議・検討を行う。
 - ② 一般の人にも分かりやすい本学会の立ち位置・特徴などについて検討し公開していく。特に現在重要な案件である透析専門医に関して日本専門医機構との意見交換を行いながら、認定に向けて検討を進める。
- (6) e-ラーニング検討小委員会（菅野義彦委員長）
 - ① 2024年6月開催の第69回日本透析医学会学術集会・総会における生涯教育プログラムの教育講演から座長・演者の同意を得て、スクリーンアウト方式の動画を収録しコンテンツとする。コンテンツには「医療安全」、「災害」、「倫理」、「感染」を含むように配慮する。
 - ② 各演者には試験問題の作成を依頼し、e-テストにより専門医更新の単位認定に利用する。専門医の単位認定は、連続した60分の講演1回または30分の講演2コマを連続して視聴し試験に正答することで1単位を認定、年間5単位、5年間で25単位を上限とする。ただし学術集会に参加してすでに生涯教育プログラムの5単位を取得した者は同年度のe-ラーニングでの単位は認定しない。
 - ③ 単位認定を希望する者は認定料3,000円を支払う。運用については専門医制度委員会と適宜意見交換を図る。なお、専門医以外の正会員（専攻医を目指す医師を含む）及び施設会員に所属する医療従事者もスキルアップのための視聴を可能とする。配信の開始時期などは本学会ホームページ及び会誌の会告で会員に通知する。
- (7) 病気腎移植に関する検討小委員会（酒井 謙委員長）

2017年10月29日 病気腎移植（修復腎移植）が先進医療Bとして厚生労働省に認可された。これに対して、日本泌尿器科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本臨床腎移植学会、日本移植学会の5学会は合同で、外部委員からなる適切な当該医療の検証（外部委員派遣）が必要であるとの声明を出した。申請医療機関からの申請に対して、日本透析医学会は事前検証としての外部委員選定を2018年度に行った。

その後の進捗であるが、現在まで先進医療B症例は、当該医療機関から申請されてない。

2024年度においても、申請医療機関からの修復腎移植申請があった場合には、速やかに外部委員を派遣し、レシピエント、ドナーの双方に不利益が生じないように、先進医療を注視していく任を遂行するが、本事業の継続可否についても併せて検討する。
- (8) 書籍発行運営委員会（小川哲也委員長）

日本透析医学会ブックシリーズとして、今後も本学会が発行する書籍等出版事案について検討する。
- (9) 台湾、韓国、本学会3学会シンポジウム推進小委員会（友 雅司委員長）
 - ① 第69回日本透析医学会学術集会・総会（6月7日から9日）にて開催予定
テーマ：「保存的腎臓療法（Conservative kidney management：CKM）」
日本側座長：酒井 謙
演者：未定
韓国、台湾からそれぞれ座長、演者が発表予定。
 - ② KSN2024（APCN2024と合同開催：令和6年6月13日から16日）にて
2024年6月16日（日）午前に「Asian Nephrology Forum」という名称で開催予定
テーマ：「Optimal Management of ESKD Patients in Asia」
日本側座長：武本佳昭、演者：友 雅司
韓国座長：Sang-Ho Lee、台湾座長：Mai-Szu Wu

韓国演者：Sung Joon Shin, 台湾演者：Mai-Szu Wu, 香港演者：Philip Kam-Tao Li

③ 台湾腎臓学会 (TSN)

令和6年(2024年)も、12月に、台湾、韓国、本学会3学会シンポジウムとして開催する予定
テーマ：未定

(10) VA 血管内治療認定制度検討小委員会 (深澤瑞也委員長)

- ① 昨年度の VA 血管内治療認定医委員会の認定作業時に生じた、さまざまな事務手続き上の問題点および疑義解釈を中心に、本年度の申請に関する改善点をまとめる。本年度の申請に対する条件を会員に可及的速やかに公表し、本年度の申請に向けての準備を行っていただくこととする。
- ② 申請作業は、既存の構築した申請システムを用いて昨年同様の秋からの申請、その後の審査を委員に依頼し判定を行う。生じた疑義に関しては新しい判定基準に基づき再審査し、最終的な疑義は委員全員の合議により判定を行う。結果は理事会に報告し最終決定とし、本人に対して結果発表ならびに認定証の交付を行うこととする。また本年度の申請においても、生じた問題点、疑義解釈に対しては昨年度同様に委員会内で統一見解を作製し、翌年度以降の委員会への申し送りを行う。

6) 学会との連携、協力関係

(1) 日本医学会, (2) 日本医学会連合, (3) 日本医師会, (4) 日本慢性腎臓病 (CKD) 対策協議会, (5) 透析療法合同委員会, (6) 内科系学会社会保険連合, (7) 外科系学会社会保険連合, (8) 臓器移植関連学会協議会, (9) 末期腎不全治療説明用小冊子作成, (10) 糖尿病性腎症合同委員会, (11) 登録腎生検予後調査検討委員会, (12) 先行的献腎移植申請検査会, (13) 透析療法に関するグランドデザイン, (14) 日本透析医会との連絡協議会, (15) 日本医療器材工業会と日本透析医学会の連絡協議会等と協力、連携を密にしていく。

7) その他

クレジットカードでは、キャッシュレス・ECの普及に伴い、サイバー攻撃などの増加等を背景としたカード不正利用急増を受け、政府(経済産業省)は2025年3月を目処に、ECサイトへの本人認証(EMV3Dセキュア)の導入を義務化することとなったことに伴い、本学会の会員専用ページ MyWeb でのクレジット決済に係るシステムを EMV3D セキュアを導入したシステムへ改修する。

2. 財務委員会

平成20年12月に新公益法人制度が施行され、これに伴い本学会も平成24年9月3日付けをもって、一般社団法人に移行した。一般社団法人への移行とともに本学会の財務管理を平成20年度改正の新・新公益法人会計基準に則り、新・新基準による経理を実施し、貸借対照表および正味財産増減計算書等を軸とした本学会活動の正確な各事業別損益の把握をして、より適切な財務管理を目指す。

以上を踏まえて、税務を含めた適正な会計処理を継続的に遂行し、学会として各常置委員会、小委員会の諸事業を積極的に推進し、多大な成果が得られるよう財務を通じて協力助成するとともに財務業務の全般的な見直しを継続して検討する。

3. 編集委員会

1) 公式和文誌「日本透析医学会雑誌」について

- (1) 日本透析医学会雑誌を毎月1冊、年間12冊を発行する。
- (2) Year in Review 2023の原稿を受け、2024年和文誌57巻のしかるべき号に掲載する。
- (3) 統計調査委員会年末調査報告「わが国の慢性透析療法の現況」を2024年和文誌57巻12号に掲載する。
- (4) 学術集会・総会特別号(抄録集)を Supplement として発行する。郵送は希望者のみに限定する。

- (5) 年間1回を目安として特集号を企画する。また、Invited Review という形でその領域の専門家に依頼し、掲載していく。
 - (6) 和文誌の冊子体での発行を中止し、2025年度からの完全オンライン化の準備をすすめる。
- 2) 公式欧文誌 Renal Replacement Therapy (RRT) について
- (1) 引き続き Web Journal として Open Journal の形式で、CC-BY の版権で引き続き発行する。
 - (2) 2023年6月に Journal Citation Reports (JCR) の Impact Factor を取得した。PubMed Central での Index 化の再申請を2023年中に行ったが、不採択の審査結果であった。2025年に再申請を行う。
 - (3) RRT 誌は下記の9学会の公式英文誌となっている。これらの各学会のガイドラインや報告レポートなどを Position Paper として順次出版する。
 - ・ Japanese Society for Dialysis Therapy (JSDT)
 - ・ Japanese Society for Clinical Renal Transplantation (JSCRT)
 - ・ Japanese Society for Peritoneal Dialysis (JSPD)
 - ・ Japan Society for Blood Purification in Critical Care (JSBPCC)
 - ・ Japanese Society of Renal Rehabilitation (JSRR)
 - ・ Japanese Society of Nephrology and Pharmacotherapy (JSNP)
 - ・ Japanese Society for Pediatric Renal Failure (JSPRF)
 - ・ Japan Academy of Nephrology Nursing (JANN)
 - ・ Japanese Society for Technology of Blood purification (JSTB)
 - (4) すでに採用済の海外からの Editorial Member を Advisory Board Member として引き続き編集業務の関与を依頼する。
 - (5) 新規には本邦在住者の Editorial Member 増強が必要な状況であり、採用各学会に人材の推薦依頼するとともに、独自にも Editorial Member (Associate Editor および Editorial Board) を採用増強する。
 - (6) 台湾腎臓学会・韓国腎臓学会・日本透析医学会の3学会合同シンポジウムが、第69回日本透析医学会学術集会・総会に開催される予定である。その各国の講演内容を報告として掲載を交渉する。
 - (7) 120編の投稿を目標とし、本邦以外の国と地域からの投稿促進努力を行う。
 - (8) 年間掲載論文の研究内容および英文の質の向上を追求する。その結果として、アクセプト率の低下も許容する。
- 3) その他
- 和文誌査読システムにおいて、「一時保存」機能が備わっていなかったため、一時保存が可能となるよう、システムの改修作業を行う。

4. 学術委員会

- 1) 学会賞・奨励賞の選出
選考規定に則って学会賞・奨励賞の選考を行い、理事会の承認を得る。
- 2) 学術委員会活動（ガイドライン、提言等の作成、広報活動）等に関する協議
学術委員会の会合を定期的で開催し、学術委員会関連小委員会と共同して、実施すべき学術活動に関して協議・遂行する。
- 3) 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン改訂ワーキンググループ（深川雅史グループ長）
評価委員の意見をもとに修正した上で、体の形式の統一を図り原案を完成する。その後、顧問、理事会を経て原案を公開し、公聴会ならびに記名のパブコメを経てさらなるブラッシュアップを図る。最終案は学術集会の際に提示し、可及的に早く、ホームページならびに透析会誌に掲載する。その後、英文版の作成を行い、アジアを含む世界に発信を行う。

- 4) 血液透析患者の糖尿病治療ガイド改訂ワーキンググループ（阿部雅紀グループ長）
パブリックコメントを募集し、2024年の第69回日本透析医学会学術集会・総会にて「透析患者の糖尿病治療ガイド2024」を公表する。
- 5) 慢性腎臓病に伴う貧血治療のガイドライン改訂ワーキンググループ（倉賀野隆裕グループ長）
2024年度も適切な時期に改訂委員会を実施する予定である。
また、第69回日本透析医学会学術集会・総会において以下の2つのセッションにおいて改訂ガイドラインの骨子を提案する予定である。
「慢性腎臓病に伴う貧血治療ガイドライン1」
1) 慢性腎臓病に伴う貧血の病態と診断：鈴木隆浩。2) 貧血是正の意義と目標 Hb 値：鶴屋和彦。
3) 目標とすべき鉄関連因子とその値：本田浩一。4) 鉄剤投与：小川千恵。
「慢性腎臓病に伴う貧血治療ガイドライン2」
1) ESA 投与：林 晃正。2) HIF 投与：田中哲洋。3) 腹膜透析患者における貧血管理：伊藤恭彦。
4) 小児における貧血管理：芦田 明・三浦健一郎。5) 腎移植患者における貧血管理：辻田 誠。
- 6) バスキュラーアクセスガイドライン追補に関するワーキンググループ（深澤瑞也グループ長）
ウロキナーゼ供給停止による今後の VA 管理の方策が固まり次第、今までの検討事項も含めて追補版の作成を進める。
- 7) 栄養問題検討ワーキンググループ（神田英一郎グループ長）
課題① 慢性透析患者の栄養素摂取量の評価および予後の調査（SUDACHI STUDY）
大塚製薬工場との多機関共同臨床研究（SUDACHI STUDY）を継続する。
課題② 第70回日本透析医学会学術集会・総会でのワーキンググループ企画を検討する。
SUDACHI STUDY の進捗、透析患者の栄養摂取基準に関する文献的調査結果を、第70回日本透析医学会学術集会・総会にて発表するため、ワーキンググループ企画を検討する。
- 8) ウロキナーゼ供給困難下における VA 血栓性閉塞に対する代替医薬品の検討に関するワーキンググループ（深澤瑞也グループ長）
UK 使用困難な状況下での会員の対応策をアンケート調査結果の日本透析医学会誌への投稿。
シャント系アクセスの血栓性閉塞に対する UK 使用困難な状況下での論文的考察を踏まえて代替治療の報告を日本透析医学会誌に掲載する。
長期留置型カテーテルに対する UK 使用困難による対応策は現在国内外の論文の調査ならびに今後の方策に対してのまとめを日本透析医学会誌に掲載する。
また、シャント系アクセス血栓性閉塞に対する血栓除去デバイスが本邦では限られていることから、海外で使用されるデバイスの、今後本邦への導入に対して製造社への導入依頼、ならびに協調しての導入依頼をPMDAならびに厚生労働省へ働きかける。これには関連学会とも強調して行う。
- 9) 末期腎不全の緩和医療・ケアに関する提言作成委員会（酒井 謙委員長）
現在の国内外の現況は、若手を中心に調べてもらう。CKM 後の緩和ケアにおける具体的な医療とケアを作り上げる意味で、参考になる末期がん・末期心不全の関連学会に医師・看護師の派遣を関係団体に依頼する予定。メンバー策定の後、理事会承認を経て、提言作成会議を開始する。
2024年度 文献調査 役割分担 初めに、各自の COI、ガイドか提言、提言タイトルの妥当性検討
以後 2025年度 提言各章文章作成 日本透析医学会報告第1回、2026年度 提言和文完成 日本透析医学会報告第2回、公聴会、パブリックコメント、和文投稿、2027年度 英文投稿
- 10) 小委員会活動
(1) 学術専門部小委員会（小岩文彦委員長）
① Dialysis Therapy, 2023 year in review を第69回日本透析医学会学術集会・総会（2024年6月）において委員会企画として開催する。

- ② 各演者の先生に Dialysis Therapy, 2023 year in review の発表内容の投稿を依頼する。
- ③ 統計調査データを用いた公募研究の事前審査について

統計調査データを用いた公募研究の申請再開にあたり、統計調査解析小委員会が中心に担当していた事前審査を統計調査解析小委員会と学術小委員会による合同委員会が担当する運用案に修正された。事前審査の役割について、解析の可能性などは統計調査解析小委員会が判断し、学術小委員会は学術的な意義について審査することになった。本案は2023年12月の理事会で承認され、事務的な流れを確認したのちに2024年度に運用が開始する予定である。
- (2) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会（友 雅司委員長）
 - ① 日本透析医学会、日本透析医会、JACE（日本臨床工学技士会）との3団体共同「透析排液管理ワーキンググループ（峰島三千男グループ長）」

透析排水の適正管理についてさらなる検討を行い、その成果に関する啓発活動を行う。
 - ② ISO・IEC 対策 ワーキンググループ（川西秀樹グループ長）

日本の見解を反映させるべく ISO・IEC 会議に委員を派遣し討議を行う。
 - ③ 第69回日本透析医学会学術集会・総会において

“未来の透析技術への前進—「血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会」および「血液浄化に関連する新技術検討小委員会」の合同セッション”を開催する。
 - ④ 「委員会報告 学術委員会 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会報告 血液透析濾過器の性能評価と使い分け」と「委員会報告 学術委員会 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会報告 血液浄化器（中空糸型）の機能分類2023」の英文化を行い、Renal Replacement Therapy に発表する。
- (3) 血液浄化に関連する新技術検討小委員会（山下明泰委員長）
 - ① 第68回日本透析医学会学術集会・総会に引き続き、第69回日本透析医学会学術集会・総会（令和6年6月）においても委員会で議論した成果を、委員会（「血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会」との合同）企画で公表する。
 - ② 昨年度に引き続き、今年度も委員会はオンラインで2回開催する。新委員との連携を深め、これまでに取り扱ってこなかった分野への研究テーマの拡張を目指すとともに、懸案となってきた活動資金の獲得についても検討する。
- (4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（阿部雅紀委員長）
 - ① 体験参加型セッションの開催
 - ② 学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーの開催

今後は学術集会での開催を目指す。
- (5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（脇野 修委員長）

例年通りの方法で適切な応募研究課題の中から選考する。
- (6) 透析医学用語集作成小委員会（土谷 健委員長）

先の透析医学用語集が平成19年度のものであり、新しい用語・古くなった用語等もあるので、基本的に用語集を改訂する方針とし、実際の作業を開始する。

5. 統計調査委員会

- 1) 2023年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況の調査・報告
 - (1) 2023年調査結果を2024年学会誌57巻12号に、英文報告書をRRT誌に掲載する。
 - (2) 本学会和文、英文のホームページに調査結果を掲載する。
 - (3) 2023年調査結果を統計調査データベース、WADDAシステム、学術研究用データ切出しシステムに取り込む。

- (4) 調査協力いただいた非会員施設には、「わが国の慢性透析療法の現況 2023 年 12 月 31 日現在 CD-ROM 版」を作成し、配布する。
- 2) 2024 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査の実施
 - (1) 2024 年末調査の新規調査項目を選定する。
 - (2) 2024 年末の調査計画について倫理審査を依頼し、承認後 UMIN に公開する。
 - (3) 全国の透析施設に対して 2024 年末わが国の慢性透析療法の現況調査を実施する。
- 3) 学術研究用データ切り出しシステムの改善
 - (1) 学術研究用データ切り出しシステムに、より詳細なデータ抽出条件機能を追加する。
- 4) 統計調査データを活用した研究活動の推進・論文化
 - (1) わが国の透析医療のノウハウを世界に発信するために、現在までに蓄積されたデータを解析し積極的に論文化を行い、日本人のエビデンスの構築を行い、将来のガイドライン作成等に備える。
 - (2) 公募研究を再開し、特に若手研究者の統計調査データを用いた研究への参画を進める。
- 5) レジストリ国際協調への課題の明確化（継続事業）
 - (1) ISN 主導の途上国におけるレジストリ立ち上げプロジェクトである SharE-RR へ参加する。
 - (2) 国際レジストリ協調に求められる要件の明確化、JRDR の将来の改修方針の明確化
- 6) 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会における以下のセッションの開催
 - (1) 統計調査委員会企画：「こんなことまでできる！ WADDA システム」
- 7) 国内・国際協力の推進
 - (1) 日本透析医会をはじめとした他学術団体、さらには United State Renal Data System, Australia New Zealand Data System, European Real Association/ European Dialysis Transplantation Association 等の海外レジストリと連携し、データ供与や解析を行う。
- 8) 英語版ホームページの充実（継続事業）
 - (1) 日本透析医学会の統計調査の海外への発進力を高めるために、統計調査のホームページを充実させる。
 - (2) 英語版ホームページには英語版現況報告の PDF、英語版図説 PPT、統計調査の歴史やシステム、これまでに発表された論文一覧などを提示する。
- 9) 会員インセンティブの充実
 - (1) 統計調査への理解を深め、会員のニーズを知るため、地域協力員メーリングリストで引き続き積極的な情報提供に努める。
 - (2) 帳票出力システムの利用を推進する。
- 10) Web によるデータ収集の可能性についての情報収集
 - (1) 現在 USB メモリでデータ収集を行っているが、USB メモリに内在するさまざまなリスクを低減するため、Web によるデータ収集を併用することの可能性について、情報収集を行う。

解析小委員会

- 1) 各小委員は既存データベースを用いて、慢性透析医療の将来に必要とされるさまざまなテーマについて解析を行い学会報告、論文化を行う。
- 2) 新たな研究テーマの提案に対して採否の意見をまとめ、委員会に審議を依頼する。
- 3) 既存研究テーマの進捗状況を小委員会で定期的に報告し、相互にブラッシュアップする。
- 4) データベースのデータクリーニングの統一的な規則を策定する。
- 5) 公募研究のサポート、進捗の確認を行う。

6. 専門医制度委員会

透析専門医は、大学病院や基幹病院へ集中する傾向が強い他領域の専門医とは異なり、全国の透析施設すべてに1名以上の勤務配置することを目標とする。基本知識・診療技術は勿論、手術・処置技術・倫理・医療安全・感染対策・災害対策などに対する総合的能力を身に付けることを第1義とする。内科・泌尿器科の垣根を越えた総合診療により、患者とともに長期間診療を行う専門医制度がむしろ必要である。基本領域とサブスペ領域の専門研修カリキュラムとの調和は、腎臓機能を失ったうえでの特殊な診療技能にて、補完研修ではなく独立した通常研修に該当すると考える。

- 1) 透析専門医として日本専門医機構から認定を受けることを目指して、現行および施行時期理事会一任の専門医制度規則・規則施行細則については、必要に応じて見直しを審議する。
- 2) 血液浄化法に関する生涯教育の一環として、全国を日本透析医学会専門医制度施行細則第2条の10地区に分け、年1回各地区の各地方学術集会にて生涯教育プログラムとして実施している講演会に対して、専門医認定小委員会地区委員および施設認定小委員会地区委員が1つの地方学術集会を推薦し、専門医等認定事業経費から助成金を支給する。
- 3) 透析専門医は、日本内科学会と日本泌尿器科学会との透析領域の個別協議会（小委員会）で、基本領域専門医を透析医療と関連が深い横断的6領域（総合内科専門医、泌尿器科専門医、外科専門医、小児科専門医、救急専門医、総合診療専門医）のサブスペシャルティ領域として、専門研修カリキュラムを改訂する。
- 4) 各小委員会で整備した内容について検討する。
 - (1) 研修プログラム小委員会
 - ① 基本領域専門医制度と連携した透析研修カリキュラム第4版の作成を検討する。
 - (2) カリキュラム小委員会
 - ① 透析専門医としての「質」を継続維持していくために、「セルフトレーニング問題」を導入しており、カリキュラム小委員会編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、専門医・指導医認定小委員会の厳密な審査で所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位（5単位）を認定している。本年度は専門研修トレーニング問題解説集の改訂第5版、専門研修指導マニュアルの改訂第5版の出版を目指す。このための目次（大中小項目）の改正に着手した。
 - ② 学術集会・総会の教育講演オンデマンド視聴による単位認定のためのeラーニング問題についてのブラッシュアップを行う。
 - (3) 専門医認定小委員会
 - ① 専門医と指導医の新規認定と更新を行う。
 - ② 専門医認定制度に係る諸問題（適正な専門医数、専門医の地域偏在）をワーキンググループで検討を継続する。
 - ③ 地域偏在・施設偏在の解消のために、専門医数と施設数が少ない地域の基幹病院に調査を行い、立案した具体策について、偏在を解消する方策を個別に検討する。
 - (4) 専門医試験小委員会
 - ① 2024年度専門医試験を適切な感染対策のもと実施する。
 - ② 専門医認定審査は、今までと同様に書類審査、倫理・安全対策・感染対策・災害対策に関する問題を含む客観式筆記試験（問題形式はAタイプ、X2タイプ）と口答試問試験の3者の総合的な判断で行い、医師国家試験に準拠した試験問題作成基準を用意し、合否を決定する予定である。
 - ③ 専門医試験プール問題約800題の中で、優良でない試験問題（優良の定義：正答率50～70%かつ識別指数0.2～0.4以上）をブラッシュアップする。また、新規に問題を作成し、写真や図表問題も多くする予定である。

(5) 施設認定小委員会

- ① 認定施設と教育関連施設の新規認定と更新を行う。
- ② 今後の透析専門医認定に備えて、専門研修基幹施設と専門研修連携施設の施設群の形成をさらに進める。

7. 国際学術交流委員会

1) 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会において下記の企画を行う予定である。

I. シンポジウム 以下の2つのシンポジウムを実施予定で公募を行っている。

シンポジウム (1) : Countermeasures for natural disaster in dialysis center.

シンポジウム (2) : Ideas for the optimal dialysis efficiency under each country's dialysis environment.

II. 一般公演 (Free Communications)

例年通り、公募を行った。

III. Farewell Reception

海外からの参加者、演者、国際交流委員、日本透析医学会評議員などの学術交流の場として、大会期間に Farewell party を開催予定である。

IV. Travel Grant 等

Farewell Reception 開催などの予算の関係上 lower-middle income countries or low-income countries 12 万円、upper-middle-income countries or high-income countries は 5 万円となった。年齢制限等の条件については例年通りとなった。

2) 国際交流派遣事業

海外関連学会への交流委員派遣は予定していない。

3) その他

国内外で開催される、関連国際学会へ各委員が独自に参加する予定である。

8. 評議員選出委員会

評議員の任期は 2 年であるため、2024 年度は選出を行わない (2023 年度施行)。

9. 保険委員会

2024 年の診療報酬改定決定を受け、学会員に問題点や希望をあげてもらい、内科系学会社会保険連合 (内保連)、外科系学会社会保険委員会連合 (外保連)、日本腎臓学会、日本小児腎臓学会、日本アフェレシス学会、日本急性血液浄化学会、日本腹膜透析医学会、日本透析医会、日本泌尿器科学会と提案項目の検討を行い、内保連および外保連を通じて厚生労働省に提案する。また日本腎代替療法医療専門職推進協会とも密接に情報交換を行い要望を出していく。

日本透析医学会保険対策ワーキンググループを保険委員会内に設置しており、将来の透析医療の診療報酬を考え、学会員からのニーズに基づき、どのようにエビデンスを構築していくかを引き続き討論していく。

2026 年改訂に対して日本透析医学会としてどのようなアプローチで、何を要望していくのか検討する。提出期限が早いので総会までには方針を立てる。

2024 年第 69 回日本透析医学会学術集会・総会に向けて委員会企画を提案した。本年の改定は 6 月となるため、詳細を見極めて、今後の対策も含めて講演する予定。

10. 倫理委員会

- 1) 日本透析医学会として対応すべき倫理に関する課題に対して、適時委員会を開催し審議する。
- 2) 日本透析医学会として対応すべき研究倫理に関する課題に対して、随時、研究倫理に関する検討小委員会を開催し検討する。
- 3) 個人情報安全管理ならびにその適切な取扱をするため、個人情報管理者である倫理委員長が個人情報の利用等の管理に適時対処する。

11. 腎不全総合対策委員会

本委員会では腎代替療法へのスムーズな移行や、透析・移植患者の QOL の改善を目標に、毎年のテーマを決めて検討を行ってきた。2023 年度は高齢者の末期腎不全対策を主要なテーマとして学会企画を実施するとともに、バスキュラーアクセスの作成と管理状況についてアンケート調査を実施した。

1) 腎代替療法へのスムーズな移行に関する検討

本委員会では腎代替療法へのスムーズな移行に関する検討として、透析導入前から透析導入期にかけてバスキュラーアクセス作製の実施時期や作製を担当した医師（診療科など）、導入期のアクセス使用状況、インターベンションの必要性、などの実態調査を実施した。稲熊大城委員を中心に解析を実施しており、論文作成中である。

2) 末期腎不全患者の QOL 向上

本委員会では過去にも末期腎不全患者と QOL の関連について検討した。今回は保存期から透析期の腎不全管理や合併症管理が QOL にどのような影響を与えるのか、移植医療の視点でみた患者 QOL や薬物療法や運動療法と腎不全患者の QOL について、第 69 回日本透析医学会学術集会・総会の学会、委員会企画で 5 人の演者に解説していただく予定である。

司会：伊藤孝史（帝京大学）、小岩文彦（昭和大学藤が丘病院）

演者：

- (1) 透析合併症管理と QOL 向上のジレンマ 小向大輔（川崎幸病院腎臓内科）
- (2) 保存期から透析期の腎不全管理が QOL に及ぼす影響 稲熊大城（藤田医科大学ばんだね病院）
- (3) 腎移植医から見た末期腎不全患者の QOL 吉武 理（昭和大学腎移植センター）
- (4) 末期腎不全患者の薬物療法と QOL の関連 古久保拓（仁真会白鷺病院）
- (5) 末期腎不全患者の QOL 向上を目指した運動 松沢 良（兵庫医科大学）

12. 危機管理委員会

1) 危機管理委員会

- (1) 透析医療における安全管理、災害と透析医療をテーマとした学術活動を行う。
- (2) 医療安全、災害対策に関して、日本透析医会、日本腎臓学会、日本腎不全看護学会、日本臨床工学技士会などの関連団体と緊密に連携する。

2) 災害対策小委員会（山川智之小委員長）

- (1) 第 68 回日本透析医学会学術集会・総会（2023 年 6 月 16 日～18 日、神戸コンベンションセンター）において、災害に関する危機管理委員会企画を行う。テーマは「慢性腎臓病患者に特有の健康課題に適合した災害時診療体制の確保に資する研究の成果と提言」とし、以下の内容で行う。さらに、その内容を委員会報告としてまとめ、透析会誌に掲載する。

司会：鶴屋和彦，山川智之

演題・演者

- ① 透析施設における災害時透析医療体制に関する調査研究 仁真会白鷺病院 山川智之
 - ② 透析患者の災害への準備に関する調査研究 赤塚クリニック 赤塚東司雄
 - ③ 大規模災害時における医薬品の供給に関する報告 さいたま赤十字病院内科 雨宮守正
 - ④ 地方における県をまたいだ実際の災害対応，情報通報手段の利活用に関する調査研究
東北大学腎・膠原病・内分泌内科学分野 宮崎真理子
 - ⑤ 東京都における災害時透析医療体制の確保に関する調査研究
東京女子医科大学血液浄化療法科 花房規男
 - ⑥ 災害時における情報共有ならびに行政等との連携に関する調査研究 元町 HD クリニック 森上辰哉
- (2) 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会（2022 年）の委員会企画の発表内容を日本透析医学会誌へ掲載する。
- (3) 原発事故の避難体制について取り上げていく。原発事故に対する対応について新しい情報があれば、今後メールで情報共有していく。
- (4) 日本透析医学会の理事，危機管理委員会，統計調査委員会，地域協力員は引き続き日本透析医学会の災害対策メーリングリストに参加し，災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と協力する。

3) 医療安全対策小委員会（満生浩司小委員長）

- (1) 第 68 回日本透析医学会学術集会・総会（2023 年 6 月 16 日～18 日，神戸コンベンションセンター）において，医療安全に関する危機管理委員会企画を行う。テーマは「透析医療事故と医療安全に関する調査報告」とし，以下の内容で行う。さらに，その内容を委員会報告としてまとめて透析会誌に掲載する。

司会：鶴屋和彦，満生浩司

演題・演者

- ① 調査報告の概要 医療法人社団石川記念会腎臓内科 安藤亮一
 - ② 抜針事故 中野南口クリニック 木全直樹
 - ③ 転倒・転落事故 横須賀クリニック 土屋和子
 - ④ 透析操作に関連した事故 神奈川工科大学健康医療科学部臨床工学科 山家敏彦
 - ⑤ 調査報告を今後の医療安全にどう生かすか 東北大学腎・膠原病・内分泌内科学分野 宮崎真理子
- (2) 医療事故調査報告制度に協力団体として，センター調査などを担当する。
- (3) 医療事故調査委員を各都道府県に配置し，必要に応じて委員の更新を行う。
- (4) 厚生労働省などから報告される薬剤・医療器具などに関する緊急安全情報の中で，透析医療に関わるものについて，日本透析医学会ホームページを利用して会員に周知を図る。

13. 研究者の利益相反等検討委員会

- 1) 「日本透析医学会における医学研究の利益相反（COI）に関する指針」に基づき，会員の利益相反状態に関連した以下の事項について実施する。
- (1) 会員が総会等で発表する利益相反状態に関する情報開示
 - (2) 会員が学会誌に投稿する際の利益相反状態に関する報告書の提出
 - (3) 本学会の役員（理事長，理事，監事），総会会長，委員会委員長，特定の委員会ならびにその作業部会委員の利益相反状態に関する自己申告書の提出
 - (4) その他，会員に関連した利益相反状態や，自己申告内容に関する管理を必要に応じて行う。
 - (5) 理事長の諮問により利益相反状態の問題の有無・程度の検討，審査請求に関する判断マネジメントを行う。
 - (6) 日本医学会 COI 管理部会等の講演会，会議に学会として出席し，最新情報を得る。

- 2) 今後も「日本医学会 COI 管理ガイドライン」の一部改正などが行われた場合には、委員会で検討し、理事会の承認を経て、これを周知していく。

14. 男女共同参画推進委員会

1) 男女共同参画推進委員会

日本臨床工学技士会、日本腎臓病薬物療法学会、日本腎不全看護学会、日本病態栄養学会と共同し男女共同参画活動を進める。日本透析医学会ホームページの男女共同参画推進委員会の項の拡充を図る。多職種の男女共同参画に関する小委員会、女性医師育成小委員会の活動内容を掲載する。透析分野における男女共同参画の現況、展望についての寄稿、編集を進める。

2) 小委員会

(1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会

日本臨床工学技士会、日本腎臓病薬物療法学会、日本腎不全看護学会、日本病態栄養学会のそれぞれの働き方改革について各学会の経緯と現状と検討する。第 69 回日本透析医学会学術集会・総会の議題とする。あるいは、学会誌報告とする。

(2) 女性医師育成小委員会

I. 委員会企画「TSUBASA PROJECT」について

第 69 回日本透析医学会学術集会・総会において、委員会企画「TSUBASA PROJECT・2023 年度透析専門医勤務状況調査報告」を開催する。

第 8 回「TSUBASA PROJECT」に選出された研究結果を発表し、日本透析医学会ホームページに掲載する。発表後、英論文化し RRT へ投稿する。

II. 第 9 回「TSUBASA PROJECT」について

第 9 回「TSUBASA PROJECT」を公募する。

「TSUBASA PROJECT」は女性医師の研究活動を奨励、援助し、それによって透析医療の向上、女性の活躍を推進させることを目的とし、優れた研究に対して研究助成を行うものである。

第 9 回「TSUBASA PROJECT」募集要項

当該年度の日本透析医学会学術集会・総会に TSUBASA PROJECT 賞として応募された抄録から、優れた演題 6 件を選出する。抄録は日本語、800 文字までとする。選出は女性医師育成小委員会委員により行い、理事会の承認を得る。選出されなかった演題は当該年度の日本透析医学会学術集会・総会の一般演題に移行し、改めて 500 文字の抄録を作成する。

- ① 応募研究：透析医療に関する基礎研究、臨床研究、未発表論文であること
抄録は日本語、800 文字まで
- ② 応募資格：日本透析医学会正会員の 45 歳以下の女性医師
- ③ 応募演題：6 件
- ④ 選出報告：当該年度の日本透析医学会学術集会・総会の委員会セッションで発表。研究助成として、1 件につき 10 万円を授与する。
- ⑤ 優秀演題賞：選出した 6 件の発表内容から、さらに優秀な 3 演題を選出し、特別研究助成 10 万円を授与する。優秀演題の選出は女性医師育成小委員会委員が行い、理事会の承認を得る。
- ⑥ 論文化支援助成：TSUBASA PROJECT 賞で選出した 6 件が、2 年以内に英文論文化した場合には、30 万円までの論文化支援助成金を寄与する。なお、論文化に際して TSUBASA PROJECT の助成を受けたことに対する謝意を明記すること。
- ⑦ TSUBASA PROJECT 賞、優秀演題賞は学会ホームページに掲載される。

Ⅲ. 「TSUBASA PROJECT」の公報

日本透析医学会のホームページにアップするとともにバナーにも掲載依頼し、第69回日本透析医学会学術集会・総会にブース設置とポスター掲載をする。

15. 感染対策委員会

1) わが国の慢性透析患者における結核の現状に関する調査

わが国の慢性透析患者における結核の現状に関する調査はあまり行われておらず、透析患者における有病率や致死率は明らかとなっていない。また、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行後は、結核病床がCOVID-19の病床に転用されている地域があり、結核患者の入院確保に難渋している場合がある。このため、透析導入時に潜在性結核感染症（LTBI）を把握して、結核発症前に治療を行うことが重要である。

2023年12月に発行された「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン（六訂版）」には、透析導入患者へのインターフェロンガンマ遊離試験（IGRA）を使用したLTBIのスクリーニングおよび治療の重要性について記載されている。

今回、日本透析医学会の施設会員への結核に関するアンケート調査を行い、わが国の慢性透析患者における結核の特徴、および有病率と致死率を明らかにする。また、結核が発症した施設における現状と対策における問題点を明らかにする。さらに、透析導入患者へのLTBIのスクリーニングと治療の現状を明らかにし、今後の結核感染症への対策や治療に関する提言につなげる。

2) 2024年の第69回日本透析医学会学術集会・総会における感染対策委員会企画

改訂された「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン」のポイント
セッション時間：150分

司会：菊地 勘（下落合クリニック腎臓内科）、竜崎崇和（東京都済生会中央病院腎臓内科）

演題（演者）：

- (1) 標準的な透析操作と感染対策 谷口弘美（東葛クリニック病院）
- (2) 環境消毒 エコープローブの管理を含む 増田直仁（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター腎臓内科）
- (3) 透析室整備と環境対策 山本 淳（みはま病院）
- (4) HBV・HCV 菊地 勘（下落合クリニック）
- (5) HIV 安藤亮一（石川記念会）
- (6) 梅毒 西野友哉（長崎大学病院腎臓内科）
- (7) インフルエンザ 鶴屋和彦（奈良県立医科大学腎臓内科）
- (8) 結核 吉藤 歩（慶應義塾大学医学部感染症学）
- (9) ノロウイルス 増田直仁（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター腎臓内科）
- (10) 水痘带状疱疹 吉藤 歩（慶應義塾大学医学部感染症学）
- (11) 本邦透析患者におけるCOVID-19ワクチン接種の有効性～日本透析医学会年末統計調査を用いた解析～ 菅原有佳（東京大学腎臓・内分泌内科）